



大野一心

NO.45

令和6年1月22日(月) 文責：校長 諸熊 修一

頑張れ3年生！！

本格的に入試シーズンに突入し、明日からは市内の私立高校の一般入試が始まります。市外の私立高校や推薦入試で、すでに志望校から合格通知をいただいている生徒もいると思いますが、多くの方はこれからが本番です。3年生の皆さんには何度も言っていますが、受験は団体戦です。

勉強は一人でしなければなりません、周囲には同じように頑張っている人がいます。クラスの中で、お互いに励ましあったり悩みを語り合ったりして、クラスみんなで乗り越えてください。先生方も皆さんを支えていきます。ガンバレ3年生！！



【校長のひと言】

校長室



ある新聞に大学生からの投書が載っていました。教師である私にとっては衝撃的なタイトルでした。タイトルは「大嫌いな先生」。その投書は「私は先生が大嫌いだ。」で始まります。小学3年生の頃、算数の授業で簡単な問題を当てられ、答えられなかったときに「こんな問題も分からないの？」と先生から言われたということでした。それ以降、人前で発言しようとする度に極度に緊張して声が震え、言葉が詰まってしまうようになり、また否定されるのではという不安がこみあげてくるそうです。「あの先生の何気ない一言で。」ということばが印象的でした。文章は続きます。「そんな私も20歳になった。私みたいに先生を嫌いになる生徒を増やしたくなくて、私は大嫌いだった先生を目指し、親元を離れて大学で学んでいる。」

投書をした福岡県の大学生は出会った先生を反面教師として、現在教職の道へ進もうと努力されています。投書の最後はこのようなことばで結ばれています。「話すのは下手かもしれないけれど、生徒の気持ちを分かってあげられる先生になれるように頑張るから。見ていてね。先生。」(2023.12.12 毎日新聞「女の気持ち」より)

私は教師になって30有余年が経ちました。これまで数多くの子どもたちと出会ってきました。もしかしたら、投書に書かれていた先生のように知らず知らずのうちに教え子たちの心を傷つけたことがあったかもしれません。そう思うと次々と教え子たちの顔が浮かんできました。投書された大学生の方は、ぜひ教師になる夢をかなえて、自分自身が体験したような生徒を出さないように、ことばを大事にする教師になってほしいと願います。この投書を読み終わった後、教師の生徒にかけることばの重みについて改めて思いを巡らせました。

昨年、大谷選手は大リーグで44本のホームランを打ってホームラン王になりました。その報道を目にしたとき、私も頑張って学校だよりを44号出そうと思いました。今回は45号で大谷選手のホームラン数を超えることができました。一人ひとりに「ガッツポーズ」をとっています(笑)

